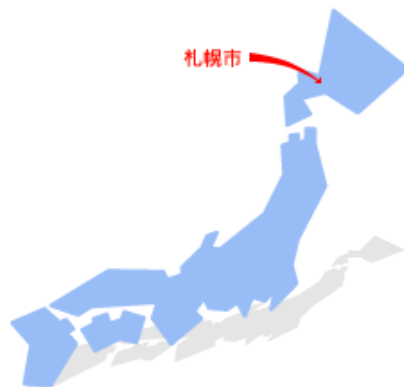


◆札幌市

投稿日：2003年3月24日
 氏名：北川 憲司
 所属：企画調整局情報化推進部IT推進課
 CRMプロジェクト



庁内に人材マーケットを～「Web☆きらりちゃんといかるくん」

札幌市では「札幌市IT経営戦略move!」の一環として、2002年度から庁内能力バンク「Web☆(スター)きらりちゃんといかるくん」を導入しています。このシステムは庁内若手プロジェクトが開発したもので、全国的にも珍しい取り組みです。

Web☆(スター)きらりちゃんといかるくん

ようこそ、北川 憲司さん。今日は2003/02/20です。
 職員番号：930346
 キタガワ ケンジ

北川 憲司

年齢：30歳代 性別：男性
 所属：企画調整局情報化推進部IT推進課
 プロジェクト担当
 職制区分：係長職
 職務名：事務職
 勤務先：ばらと北1 5ビル5階
 電話：011-211-2184
 内線：011-218-5115
 FAX：011-218-5115

ライオンさん: 実ほ親分肌なのさ!

メールを送ってください

ちよっとひと言:
 サービスアップ、業務改革、風土改革、IT導入など、イノベーション(変革)に挑戦する人を応援します。メール歓迎

興味のある分野	行政改革	教育改革	地域福祉
自己PR:	オススメ本を紹介します。 『雑学系』(M.ミッチェル・ワールドロップ著) 『リーディング・ザ・レボリューション』(ゲイリー・ハメル著)		

やる気職員のネットワークが役所を変える

庁内の様々な取組を成功に導くには、その実行に必要な能力を持った人材を探し出す仕組みが極めて重要です。庁内能力バンクシステムは、都市経営における人的資源の有効活用を底支えするインフラとして、自分の能力を積極的に活用してほしい人材が集まって、バーチャルな人材マーケットを形成しているのです。これは「変革型市役所」を目指す札幌市ならではの取り組みといえます。

このシステムは、庁内イントラネット内においてブラウザ上で動作するWebシステムで、利用者一人ひとりのこれまでの業務経験や研究分野、地域活動歴などの情報が、ホームページ形式で職員に提供され、閲覧・検索ができます(登録者だけが閲覧可能。登録は任意です)。さらに、人材タイプ(リーダータイプ、アイデアマン、調整型など)を登録することで、プロジェクトチームの人材公募にも威力を発揮しています。

また、同ページ上では人材募集の掲示板も設置されており、公式プロジェクトから自主研究会まで、様々な人材募集が展開されています。これからは、手を挙げた職員が活躍する時代なのです。

その発案から構築まで～若手の大活躍

このアイデアは札幌市IT経営戦略をつくる時に生まれました。実は、戦略をつくるにあたって、庁内から職員を公募し、電子会議室を設置して様々な議論を行っていました。その中で、「やはり人の問題が一番大事」という意見に多くの賛同が集まりました。「人材バンクのようなものがあつたらいいね」そのひと言が実現へ向けて走り出したのが平成13年4月のことでした。そこから庁内の関係部署に声をかけ、都市経営室、人事課、自治研修センターなどの各部局から推薦で若手の職員に参加してもらい、戦略チームのスタッフを加えた7人による「Web Starプロジェクト」が結成されました。「どんな機能が必要なんだろう?」「そもそも役所の問題はどこにあるんだろう?」そんな議論を繰り返しながら、約1年間かけて構築しました。堅苦しいシステムは使ってもらえないと考え、名前も親しみやすく工夫し、イラストを多用したデザインを心がけました。

最初は抵抗感

札幌市には既に庁内電子会議室というツールがあり、多くの職員が参加していました。しかし、ハンドルネームによる議論は相手の顔が見えませんし、仕事で職員同士が協力し合うためには、もっとお互いを知り合うことが必要でした。しかし、そうはいっても、いきなり実名で顔写真を出して全庁に自己PRをするというのは結構勇気がいることです。最初のうちは登録もまばらで、いろんな管理部門や管理職からは疑問の声も聞きました。それでも、いくつかのプロジェクトでこのシステムを使って人材募集をかけていくうちに、じわじわと使い方が浸透してきたのか、現在では全イントラユーザーの1割にあたる500名超が登録しています。Web☆は登録しないと内容を閲覧できない仕組みになっていますので、“誰かの助けを借りたい人は、自分も他人に貢献すること”が条件となります。この「ギブアンドテイク」の仕組みがうまくいったのかもかもしれません。

人を知るだけで仕事の半分が終わる?

よくこういう言葉を耳にしますが、それほど人のつながりは仕事に影響しています。確かに顔見知りであれば仕事も頼みやすいですし、困ったときでも相談しやすいです。「Webスターで見たよ」このひと言で簡単に知り合いになれるので、役所が小さくなったような何だか不思議な感じがするものです。そして、この人材バンクには、人と人をつないでいくアイデアが詰まっています。

1つは、「自動マッチング(お見合い)機能」です。興味のある分野という項目に例えば「中国語」と入れておくと、同じキーワードを持った者同士にメールが送られる仕組みです。これはまさに庁内出会い系!?ここから「中国語研究会」などへ発展していくことを期待しています。

もう1つは、「人脈リンク」です。自分の人脈をホームページのリンク集のように編集できる仕組みです。この機能によって、直接は知らない人にも「人脈」をたどって行き着くことができますし、「この人が紹介してる人なら安心」という風に信用付加の効果もあるのです。

私たちのめざすもの

このアイデアは札幌市IT経営戦略をつくる時に生まれました。実は、戦略をつくるにあたって、庁内から職員を公募し、電子会議室を設置して様々な議論を行っていました。その中で、「やはり人の問題が一番大事」という意見に多くの賛同が集まりました。「人材バンクのようなものがあつたらいいね」そのひと言が実現へ向けて走り出したのが平成13年4月のことでした。そこから庁内の関係部署に声をかけ、都市経営室、人事課、自治研修センターなどの各部局から推薦で若手の職員に参加してもらい、戦略チームのスタッフを加えた7人による「Web Starプロジェクト」が結成されました。「どんな機能が必要なんだろう?」「そもそも役所の問題はどこにあるんだろう?」そんな議論を繰り返しながら、約1年間かけて構築しました。堅苦しいシステムは使ってもらえないと考え、名前も親しみやすく工夫し、イラストを多用したデザインを心がけました。

私(私たち)の悩みや課題

14年4月から登録開始となったこのシステム。当初から言われていた課題は、「能力を有効活用してもらうことはできるが、成果をあげても人事異動には結びつかない」ということ。職員間では人事異動に対する要望は結構あるのだが、なかなかシステムと異動を直結させることは難しい。能力は活用することで育つといわれます。今後は、人事異動でも参照してもらえるくらい、登録者が庁内でどんどん活躍して、実績を作っていくことが当面の課題だと思います。